

札幌市緑の審議会
第2回緑の基本計画部会

(1) 前回の部会のとりまとめ

平成 21 年 9 月 28 日

(1) 前回の部会のとりまとめ

第1回緑の基本計画部会において、計画の柱と推進プログラム(資料)について、各委員からの意見概要は以下のとおりです。

「市民との協働の推進」の推進プログラムから、行政が市民と一緒に何をするのかというイメージが読み取れない。

みどりのネットワークづくりは郊外と街中の両方につながるものであることから、柱を越えた横断的な取り組みの表現を工夫する必要がある。

この基本計画の中に、市との協働のスタイルをもう少し織り込むべきである。

みどりの将来像と推進プログラムの数を合わせたほうが理解しやすい。

札幌市が目指す景観と連動するようにつくることが重要である。

札幌らしさは、協働ということをしかりと計画の中で作り込めば、その中からおのずと出てくる。

まちとまちの外にそれぞれネットワークがあるが、まちとまちの外をつなぐネットワークが見えてこない。この二つをつなぐ主要なコリドーについては、はっきりと打ち出した方がよい。

この計画が土地利用や景観計画と連動させるために、市の中でも関係部署と協働して進めていただきたい。

みどりを通してまちづくりを進めるという方向で合意はとれているが、まちづくりということが表現上としては見えてこないことから、札幌市がどんな姿を目指すのかというものがもう一段あるとよい。

4つの柱に共通していることは、つなぐということであり、活動や施策、主体をどうつなぐかが推進プログラムに書かれるべきである。

推進プログラムなどの内容を議論するにあたっては、札幌のみどりをどうしたいのかという共通のビジョンをもつ必要があり、そのためには早い段階で将来目標を設定すべきである。